



[本校] 〒950-2292 新潟市西区みずき野3-1-1
tel. 025-239-3111 fax. 025-239-3690
[新潟中央キャンパス] 〒951-8068 新潟市中央区上大川前通7-1169
tel. 025-227-7111 fax. 025-227-7117
http://www.nuis.ac.jp somu@nuis.ac.jp



平成26年 7月18日 発行

海外留学の累計1000人に迫る

5カ国へ63人がチャレンジ

2・3面

国際交流インストラクターが大活躍

6面

開講10年を迎えた連携講座「異文化塾」

「コワーキング・ラボこくじょう」日曜もオープン

5面

編集部では読者から表紙を飾る写真を募集しています! 投稿方法は nuischannel@nuis.ac.jp までお問い合わせください。「夏の魔法」PHOTO: 山崎 智洋
(情報文化学科3年/写真部)

CONTENTS

(2・3面)

派遣留学・
夏期セミナー壮行会
本気で語学を磨く
意気込み披露

(4・5面)

交換留学で光云大学(韓国)に
デンマークから教員海外研修便り
教員の活動

(6面)

新企画「ズームアップ研究室」

湧源・編集後記に代えて

(7面)

18人に表彰奨学金を贈る
スポーツ大会盛り上がる
陸上100m 全国大会で準決勝
平成27年度入試日程概要一覧

(8面)

オープンキャンパス案内
卒業生の便り
「起業支援プロジェクト」第1号
IT関連事業スタート



NUIS公式フェイスブック

<https://www.facebook.com/nuis.face>

NUISスクールアプリ開設しました

iPhone・iPad・Androidスマートフォン・タブレット向け
App StoreまたはGoogle Playストアから新潟国際情報大学で検索
アプリをダウンロードしてご利用ください。

LINE@
[@nuis-line3111](https://line.me/ti/p/@nuis-line3111)

はじめました。

LINEの「友だち追加」から「ID検索」で登録

本気で語学留学 5か国へ63人

壮行パーティーで意気込みを披露

派遣留学（情報文化学科）と海外夏期セミナー（情報システム学科）の壮行パーティーが6月18日、本校みずき野キャンパスの国際交流センターで開かれ、参加学生が意気込みを披露しました。今年度はアメリカ16人、ロシア18人、中国8人、韓国11人、そしてカナダ10人の合計63人が1〜4カ月余の海外生活を体験してきました。壮行会ではまず留学奨学金授与式が行われ、平山征夫

学長が奨学金証書を贈りながら全員を激励。各コースの代表がスピーチを行い、本場の語学を学ぶ決意や、夢をかなえてくれた家族などへ感謝の気持ちを伝えました。出発前に一堂に会した学生と関係教職員が和やかにテールを囲み、期待と不安などを率直に語り合い、全員の無事帰国を誓いました。参加学生たちの意気込みを紹介します。

アメリカ（情報文化学科2年）

高橋健太 コミュニケーション力の向上。現地では友達100人！

志賀響一郎 人生を変えるつもりで本気で取り組みます！

小野沢航太 親への感謝を忘れずに頑張っていきたい。

大島千歳 苦労する経験をできるチャンスでもあるので、メンタル面でも成長してきた。

い。スピーキングの力が弱いので、上達させて帰ってきた。西海土慎也 宗教や多民族国家、食文化など、さまざまなことから見える世界を通じて、国際感覚を養いたい。

長谷川 遥 自ら積極的にコミュニケーションを取り、友達をたくさん作って、一日一日を大切に。

清水遥希 積極的に授業に参加し、たくさんの人たちとコ

ミュニケーションをとって、楽しい留学にしたい。

柄澤亜美 いろいろな人と交流するぞ！

ロシア（情報文化学科2年）

本間久美子 悔いのない4カ月にしたい。事前研修も頑張ります。

田部美加子 貴重な機会を無駄にしないよう、一日一日を

大切に、多くのことを吸収していきたい。帰国してから後悔のないよう、全力で挑戦したい。

佐藤 楓 自分が自分自身で分かるくらいに成長して戻ってきた。楽しみでもあり、不安でもあります。メンバーと一緒に頑張りたい。

川田翔子 支えてくださる周りの方々への感謝を忘れずに、貴重な4カ月を最大限吸収させていただきます。

今井勇希 新しい環境で不安になることもあると思いますが、受け身にならず、自ら行動していきたい。

赤松大輝 ロシア語と異文化交流を学び、今後の人生に生かしたい。現地ではかきできないことをしたい。

上條真季 現地の方とたくさん話をし、積極的に学んできた。一日一日を無駄にせず、たくさん学び楽しく過ごせるように悔いなく過ごしたい。

山崎佳那子 積極的に多くの人と交流することで、日本にいただけでは成し得ないような成長ができるように頑張ります！

大竹麻耶 一回りも二回りも成長して帰ってこれたらと思います。語学はもちろん多方面でロシアについて理解し、もっと好きになって帰ってきたい。

堅田さくら 語学力の向上と、異文化に触れ、自分の中の世界を広げることを目標にしています。全力で楽しみたい！

廣川陽平 学業面の知識だけでなく、その国の人々の多くの面を見て「異文化」を理解したい。仲間と助け合い学び合い、人間的な部分を大きく向上させていきたい。

荒木彩夏 たくさんの人と話して自分の視野を広げたい。文化の違いを肌で感じて、一日一日を充実したものにするよう頑張りたい。

青木弘文 留学するまでの間、しっかりと準備をしていきたいと思っています。

金塚孝亮 文化もよく知りたいが、現地の人たちと仲良くなつて帰ってきたい。

木下内雅斗 たくさん学んで、たくさん文化に触れる！

石田貴大 帰ってくるまでには、ロシア人や大学での外国人の友達をたくさんつくりたい。

三浦詩織 現地の生活に触れながら、ネイティブと話せる期間を大切に、一日一日頑張ります！目指すはロシア語ペラペラ！

成長して帰国するぞ！

小林柚子葉 語学を学びに行くのはもちろん、文化や習慣なども肌で感じてきたい！

田代優衣 たくさん友達をつくり、常に英語で話し、授業ではくらいいついて一生懸命ついていく。アメリカでしかできないこと、日本ではできないことをたくさん経験したい。

川田浩子 必ず素晴らしい経験になる留学にします！

浅間一元 アメリカ文化を楽しんでいきます！

野崎美希 現地の人々とたくさんコミュニケーションをとって、自分の視野を広げたい。



アメリカ



ロシア



中国



夏期セミナー カナダ アルバータ州立大学

派遣留学 韓国 慶熙大学校

派遣留学 中国 北京師範大学

友達たくさん／異文化に触れ／視野を広げ

中国(情報文化学科2年)

本間祐樹 日本のメディアで伝えられている中国と私の目で見る中国を比べ、どちらが本当の中国か知りたい。

山田一樹 中国語をマスターする！中華料理を食べまくる！友人をたくさんつくる！

渡辺郁実 本場の中で生活することで、生きた言葉を話せるようになりたい。

川上美香 数十万円を親から出してもらい、4カ月という長期間を過ごすからには、しっかり中国語を覚えて話せるようになりたい。

坂井未来 中国語がペラペラに話せるようになりたい！

吉村洋輝 この一回の留学のチャンスで大きく生かし、中国語が日常的に話せることで自分にとって大きなプラスにしたい。

加藤龍太 会話の向上と中国の文化・歴史に対して理解を深め、本学の名に恥じぬよう、国際性あふれる人間になりたい。

韓国(情報文化学科2年)

佐藤帆乃佳 たくさんのかつて自分の肌で感じて、たくさん学んで大きく成長して戻ってきた。

本間華 自分の言いたいことはある程度スラスラ言えるようにすることが目標。友達をたくさんつくりたい。

本間志穂 生の韓国語を聞くことでリスニング力を鍛え、積極的に話しかけて、たくさん友達をつくりたい。



韓国

宮野美涼 言語はもちろん、さまざまな面で成長できるようないろいろなことを経験し、吸収して帰ってきた。

小島伊緒 自分から積極的に話しかけ、休みの日にはいろいろな所へ行って、文化や歴史も学びたい。

南真央 たくさんの人とコミュニケーションをとりたい。自分から積極的に話せるようになり、日々の生活の中で自然に会話ができるようになればいい。

高橋来未 楽しみなこと、やりたいことがたくさんある。ホームシックや勉強についていけないなど不安もたくさん。不安を全て自信に変えて帰ってきます！

古川優美 一日一日を大切にたくさん吸収していきたい。自分が成長したと周りの人が思えるように頑張ります。



カナダ

大桃周 なるべく日本語を使わない。毎日、写真を撮って日記を残す。楽しみながら学べるように言語の勉強や文化を学ぶことを大切に。

矢川ゆきの (3年) 普段体験できないホームステイを楽しみ、勉強をしつかりとし、日本に帰ってくるころには、前とは違う考え方ができるようになりたい。

足立雄哉 (3年) 洋楽を聞いた時に何を言っているのか聞き取ることができるようになり、真剣に取り組みたい。

本間公朗 (2年) 短い期間の留学なので、一日一日を無駄にしないよう過ごしたい。

小林美樹 (2年) 何かは明確ではないけれど、成長して何

頑張りたい。
竹部祐太 語学はもちろん、文化や習慣を学ぶことで、自分の成長につなげたい。

カナダ(情報システム学科)

北山友侑 (2年) 1カ月しかないのに、一日一日を実り多き日にしたい。

大柴千尋 (2年) 英語をものにして帰ってきたいです！

吉田早希 (2年) 初めての海外でのホームステイは、なかなか経験できないことだと思うので、自分の成長につなげられるように頑張ってきた。

近藤一輝 (2年) 異文化に積極的に触れ、自分の視野を広げていきたい。

国名／留学大学	留学期間	参加人数
カナダ アルバータ大学生涯教育学部	平成26年8月6日～9月7日	情報システム学科2・3年次 10人
アメリカ ノースウェスト・ミズーリ州立大学 教養学部	平成26年8月20日～12月13日	情報文化学科2年次 16人
ロシア ウラジオストク国立経済大学	平成26年8月27日～12月23日	情報文化学科2年次 18人
中国 北京師範大学	平成26年8月30日～平成27年1月12日	情報文化学科2年次 8人
韓国 慶熙大学校国際教育院	平成26年8月31日～12月27日	情報文化学科2年次 11人
参加学生数合計		63人

	アメリカ	ロシア	中国	韓国	カナダ	計
平成7年度	13	7	29	14		63
平成8年度	17	20	15	13		65
平成9年度			31			31
平成10年度	14	7				21
以上 海外研修計	44	34	75	27		180人
平成12年度			30		20	50
平成13年度	17	6	15	12	14	64
平成14年度	13	3	17	9	17	59
平成15年度	11	1	(中止)	4	6	22
平成16年度	13	2	31	7	8	61
平成17年度	12	5	18	13	22	70
平成18年度	7	0	9	5	3	24
平成19年度	25	12	16	10	9	72
平成20年度	12	9	9	7	13	50
平成21年度	13	11	6	4	12	46
平成22年度	16	7	10	11	9	53
平成23年度	13	7	18	13	4	55
平成24年度	14	7	13	7	12	53
平成25年度	27	5	10	10	23	75
平成26年度	16	18	8	11	10	63
計	209	93	210	123	182	817
合 計	253	127	285	150	182	997

平成26年度のスケジュール表(出発順)

海外留学・夏期セミナー参加学生の累計

今回留学することを決めてから、行きたい気持ちももちろんありましたが、不安の方がとても大きかったように思います。海外に一人で行くことも怖かったですし、全てにおいて初めての経験ばかりで戸惑いました。

今回、光云大学には日本人留学生が6人いたので少し安心したのですが、クラスが違ったため、日本人は私一人になり、中国人などと話すときはどうしても韓国語を使わなければならぬので、かえって語学を学ぶにはいい環境だ

ったと思います。交換留学なので、語学の勉強だけでなく文化や歴史についての授業でレポートや発表があつて、ついていけるか本当に不安でした。でも私が受けた授業は基本的に外国人向けの授業ということもあり、教授も分かりやすく説明してくださり、日本人が私一人のクラスということに気がかけていただきました。大変なこともありましたが、とても楽しく授業を受

不安を乗り越えて楽しく授業



右が田村さん

けることができました。最初は、韓国の学生と接する機会が少なく、韓国の学生が受けている日本語の授業にまじって勉強することにしたのですが、そのことによって、

たくさんの学生と交流することができ、今では友達もたくさんできました。今回の留学で、以前の自分よりは少し自信がついて、成長したような気がします。就活や卒論などで大変な時期に留学することには少し抵抗がありましたが、今はすごく貴重な体験だったと感じています。

- ・(2014年3月18日) 新潟市西川図書館協議会出席(新潟市)
- ・(2014年4月1日より継続) 一般財団法人自治体衛星通信機構理事

近藤 進(情報文化学部 情報システム学科・教授)

- ・(2014年2月1日～2014年2月2日) 青少年のための科学の祭典「光受信機を作ってリモコンの光を聞いてみよう」(アオーレ長岡)
- ・(2014年2月24日) ネットキャラバンと光通信を学ぶ教室(信越情報通信懇談会・総務省信越総合通信局・新潟国際情報大学主催)(南魚沼市立五十沢中学校)

佐々木 寛(国際学部 国際文化学科・教授)

- ・(2014年1月) 日本平和学会第21期 会長就任
- ・(2014年3月29日) 「座談会 混迷の北東アジア 上」(『新潟日報』)
- ・(2014年4月5日) 「座談会 混迷の北東アジア 下」(『新潟日報』)
- ・(2014年3月21日) 「新しい社会・プロジェクト」主催「福島みずほさんと一緒に『新しい社会』について語ろう」パネリスト(新潟県高校会館)
- ・(2014年6月14日) 日本国際ボランティアセンター(JVC)主催・対談「JVC流『積極的平和主義』を考えよう」(東京ウィメンズプラザ)
- ・(2014年6月29日) 「集团的自衛権をぜったい反対! 6・29集会」コーディネーター(クロスバルにいがた)
- ・(2014年2月23日) 新潟平和研究センター(CPSN)主催・非暴力トレーニング実施(クロスバルにいがた)
- ・(2014年3月23日) 日本国際ボランティアセンター(JVC)主催・非暴力トレーニング実施(東京 天光院)
- ・(2014年6月1日～6月2日) 「宗像国際環境100人会議」に招聘(福岡県宗像市)

近山 英輔(情報文化学部 情報システム学科・准教授)

- ・(2013年より継続) (独) 理化学研究所環境代謝分析研究チーム、画像情報処理研究チーム客員研究員
- ・(2014年4月～) 新潟大学超域学術院「パーソナルゲノム医学」学外構成員

教員 海外研修便り

を精力的に行っている

昨年9月から1年間の海外研修のため、デンマーク王国第2の都市オーフスにあるオーフス大学に滞在しています。この大学には、ソフトウェア工学の分野である形式仕様言語(情報システムを構築するための仕様書設計図を厳密に記述する言語)や、その言語による仕様の記述・検証支援ツールの研究・開発を精力的に行っている

デンマークのオーフス大学で客員研究員

——情報文化学部 情報システム学科・准教授 石川 洋

このグループはデンマーク国内にとどまらず、EU内の大学や企業とも共同研究を行っています。彼らの研究成果の活用例の一つに、日本の



石川先生は前列左

形式仕様言語の研究・開発に貢献

フェリカチップ開発プロジェクトへの導入(しかも成功)事例があり、国際学会で紹介されています。このようなアクティブなグループに、幸運にも客員研究員として参加でき、グループ単位で研究・開発を進めるという貴重な体験ができました。微力ながらツールの機能拡張に貢献でき、単なる「お客さん」で終わらずに済みました。帰国後もしばらくはこのグループの一員として研究活動を続けていきたいと思っています。

研修期間中は、研究活動だけでなく、適度なリフレッシュはいうまでもなく(笑)、大学院生向けの講義やデンマーク語講座を受講しました。講義は、教員と学生の質疑応答が活発に行われる対話型のもので、受講学生の勉強意識、参加意識の高さを感じました。デンマーク語講座は、長期滞在登録外国人向けに無料開講されているもので、入門コースを3カ月受講しました。1クラス20人前後の受講生があり、彼らは世界中からやってきた留学生や労働者でした。馴染みのない言語を学び、多くの国々の若者たちと交流し、貴重な体験ができました。

- ・(2014年4月20日) 「憲法97条に寄せて」新潟県音楽九条の会(新潟市東区プラザホール)
- ・(2014年4月22日) 「大学に行こう! ——人生を真剣に考える人へ」(新潟県立新潟西高等学校)
- ・(2014年5月10日) 「なぜ大学に行く必要があるのか——不確実性の時代と生きる力」(新潟県立新潟西高等学校)
- ・(2014年5月8日) 「平和学から見た坂口安吾 ①」「安吾の会」(クロスバルにいがた)
- ・(2014年6月3日) 「平和学から見た坂口安吾 ②」「安吾の会」(クロスバルにいがた)

ブラス・アレクサンドル(国際学部 国際文化学科・教授)

- ・(2014年3月27日) 「日本文化における『型』」North-East Federal University (ロシア・ヤクツク市)
- ・(2014年3月28日) 「ロシアの政権と文化」ヤクツク文化・教育省(ロシア・ヤクツク市)

3) 競争的資金獲得研究

内田 亨(情報文化学部 情報システム学科・教授)

- ・(2014年4月～2017年3月) 平成26年度科学研究費助成事業基盤研究(C)「新潟市民のソーシャルネットワーク構造の決定」研究代表者

區 建英(国際学部 国際文化学科・教授)

- ・(2014年4月～2017年3月) 平成26年度科学研究費助成事業基盤研究(B)「自由主義と自由の制度の多元性と相互作用: 思想史の東西融合と学際的展開に向けて」研究分担者

小林 元裕(国際学部 国際文化学科・教授)

- ・(2014年4月～2017年3月) 平成26年度科学研究費助成事業基盤研究(C)「東京裁判における中国の政治的役割に関する総合研究」研究代表者

4) 委員・社会的活動・記事・その他

小林 満男(情報文化学部 情報システム学科・教授)

- ・(2014年2月28日) 平成25年度第2回新潟市水道事業経営審議会出席(新潟市)

「多文化社会アメリカの現実」

新潟日報社と本学による一般市民を対象とした連携講座「異文化塾」も早いもので開講から10年を迎えました。今期のテーマはアメリカです。実はこれは受講生や市民からの要望が多かったにもかかわらず、諸般の事情で開講できなかつたものでした。

東西冷戦の終焉後、唯一の超大国となったアメリカは民主主義のリーダーを自任する一方で、世界覇権を誇示する帝国でもありません。自由と平等の社会でもあり、人種差別が依然として強固な場所でもあります。

この複雑な顔を見せる国についての講座を企画するに当たって重視したのは次の2点です。まず現在進行形のアメリカ社会を対象とすること。人種、言語、信仰、ジェンダーなど、一人ひとりの文化的背景の多様性をもとに社会をつくらうとする実践は今どきのようになっているのか。その多文化主義的な現状を理解する。

2点目は、日本にとってのアメリカの意味を考えるということ

要望の多かったテーマを実現

複雑な顔を持つ帝国の現状を理解

衝撃的だった前衛芸術家・篠原夫妻の話



す。明治維新以降の本は常にアメリカとの関係によって自分たちの国の形を決めてきたといつてよい。アメリカについて考えるといふことは日本について考えることでもある。すでに終了した初回は前衛芸術家の篠原有司男、乃り子夫妻に話を聞いてもらいました。ニューヨークに渡って45年。世界を相手に活動し続ける夫妻が見たアメリカはどのような姿だったのか。お二人の日常を記録した本年度アカデミー賞ノミネート作品「キューティートボクサー」で語られる以上に、ラジカルに初回の内容としてはかなり衝撃的だったのではないのでしょうか。

①	「前衛の道—ニューヨークの45年」 5月24日 篠原 有司男・篠原 乃り子 (芸術家)
②	「独立革命とデモクラシー」 6月28日 越智 敏夫 (新潟国際情報大学教授)
③	「移民社会の文化的多様性」 7月19日 グレゴリー・ハドリー (新潟国際情報大学教授)
④	「統社会と合衆国憲法」 8月23日 山田 啓介 (新潟日報社記者)
⑤	「『国民社会』の発展と宗教問題」 9月20日 古矢 旬 (アメリカ学会会長)

各テーマと講師・開催日

（国際学部 国際文化学科 教授 越智敏夫）
最終回はアメリカ研究の第一人者でありアメリカ学会会長でもある古矢旬氏に、宗教という観点から全体を総括していただく予定です。講義後に設けられる討論の時間にも参加していただき、受講生の皆さんには独自のアメリカ像をつくりあげていただきたいと思います。

「コワーキング・ラボ こくじょう」

4月から日曜もオープン!

大学・高校生は無料



昨年11月に新潟中央キャンパス内にオープンした「コワーキング・ラボ こくじょう」は、4月から日曜日も開館し、いっそう利用しやすくなりました。コワーキングスペースとは個々に仕事を持つ人たちが、同じ空間でコミュニケーションを図ることで、情報やアイデアを共有するための施設です。学生は無料で施設が利用でき、放課後や土・日曜日には社会人に交じって勉強したり、友達と楽しそうに会話したりしている大学生や高校生の姿が見受けられます。

「イルカナイト」で多彩なイベントも

4月から「イルカナイト」というイベントも始めました。ノンジャンルで講演会、ワークショップ、交流会、コンサートなどを自由に企画し開催することができま

教員の活動（本人申告による）

1) 研究論文・図書

神長 英輔(国際学部 国際文化学科・准教授)

・(2014年)「コンプの旅とコンプ革命—ロシア極東、日本列島、中華世界」『変容する華南と華人ネットワークの現在』風響社 (113-141頁)

上西園 武良(情報文化学部 情報システム学科・教授)

・(2014年)「段差付キーによる誤タイピング低減」『人間工学』50巻3号 (126-132頁)

小林 元裕(国際学部 国際文化学科・教授)

・(2014年)『中国・朝鮮族と回族の過去と現在』創土社 (48-80頁)

・(2014年)『週刊朝日百科 週刊新発見! 日本の歴史 (日中戦争 総力戦への道)』朝日新聞出版 (16-17頁)

佐々木 寛(国際学部 国際文化学科・教授)

・(2014年)佐々木寛 他『平和を考えるための100冊+α』法律文化社

・(2014年)佐々木寛 他『国際共生とは何か—平和で公正な世界へ』東信堂

・(2014年)「ポスト安倍政治を考える—「政治」を救い出すために」『月刊 社会民主』7月号 (7-10頁)

白井 健二(情報文化学部 情報システム学科・教授)

・(2014年)「Nonlinear characteristics of the Rate of Return in the Production Process,」International Journal of Innovative Computing, Information and Control, 10(2), 601-616

・(2014年)「Self-Similarity of Fluctuations for Throughput Deviations within a Production Process,」International Journal of Innovative Computing, Information and Control, 10(3), 1001-1016

・(2014年)「Evaluation of Production Process Using Multimode Vibration Theory,」International Journal of Innovative Computing, Information and Control, 10(3), 1161-1179

2) 学会・研究会・講演等

内田 亨(情報文化学部 情報システム学科・教授)

・(2014年5月16日)「感情労働者の有効活躍モデルの構築」経営科学研究奨励金報告会 (一般社団法人日本経営協会)

區 建英(国際学部 国際文化学科・教授)

・(2014年6月27日)「丸山と中国の近代的思考の模索—私の世代の体験を中心に—」(『生誕100周年シンポジウム 現代世界の中で丸山真男をどう読むか』、東京女子大学)

越智 敏夫(国際学部 国際文化学科・教授)

・(2014年5月17日)「私たちの今を見つめなおす：平和、人権、男女平等などをめぐって」新潟女性会議定期総会記念講演会 (万代市民会館)

佐々木 寛(国際学部 国際文化学科・教授)

・(2014年3月2日)「平和研究と国際政治学の間—高柳先男」文部科学省科学研究費基盤 (C)「国際関係論における内発性・土着性・自立性の基礎的研究」(京都女子大学)

・(2014年5月18日)「安全保障と原子力発電—グローバル・リスク社会の文脈から」エントロピー学会 (ときめい)

・(2014年1月6日~2月10日)「新たな「核の時代」を生きるために」にいがた市民大学後期講座 (クロスバルにいがた)

・(2014年1月15日~3月12日)「戦争映画から考える〈愛〉—現代人の憂鬱と希望」新潟国際情報大学エクステンションセンター・オープンカレッジ (新潟中央キャンパス)

・(2014年1月21日)「〈人権〉のゆくえ」アムネスティ・インターナショナル日本・新潟グループ (クロスバルにいがた)

・(2014年2月8日)「『新しい社会』の条件」社民党県連・県平和運動センター (新潟会館)

・(2014年3月17日)「文化・津波・国際政治」(インドネシアアチェ州・アルムスリム大学)

・(2014年4月19日)「『戦争をさせない1000人委員会にいがた』発足式講演 戦争をさせない1000人委員会にいがた (勤労福祉会館)

・(2014年4月19日)「これからの国際理解教育」にいがたNGOネットワーク (クロスバルにいがた)

zoom UP ズームアップ研究室

うな理論

近山研究室は生命システムの謎を解く研究に数学とコンピュータを用いて挑戦しています。システムとは「要素から成る、機能する全体」です。生命システムとは「生命要素から成る、機能する個体」です。

人間という生命体は60兆個200種類以上の細胞から成り、10万種類以上の生体分子より構成され、それらが複雑なネットワークを構成して、一つの個体というシステムとして働きます。ゲノム、RNA、タンパク質など、構成部品が「ネットワーク」や「システム」として動作するメカニズムについては、現在まだ未発見のことがたくさんあります。例えば、細胞や組織内の多数の複雑な物質種の運動を記述するため最適な運動方程式はまだ発見されていません。そのような理論



生命システムの謎を解く

情報システム学科 近山 英輔准教授

は、コンピュータによる医療技術に貢献するでしょう。そんな理論の開発や、細胞シミュレーションプログラム関係の技術開発は、近山研究室の主要な研究テーマです。

細胞顕微鏡写真を3次元に再構築
4年生・川村 重次

「細胞顕微鏡画像からの3次元再構築と細胞シミュレーション」です。数十枚のタバコ細胞の顕微鏡画像を3次元的に重ね合わせ、細胞シミュレータに適した入力データとしてコンピュータ上に構築する試みを行っています。思うように研究が進まないところもありますが、同時にやりがいも感じます。

アルツハイマー病の原因に迫る
4年生・高橋 成人

「アルツハイマー病に関わるアミロイドベータ生成回路のシミュレーション」。年々患者数が増え、大きな社会問題となっていますが、いまだ予防法や根本的治療法は確立されていません。病気の原因にアミロイドベータがあり、その生成過程の数理モデルの性質をCO-PASSIという米・独・英で開発された生化学反応シミュレータを用いて調べることに取り組んでいます。

ゼミ生の卒業研究テーマ

〈内発的国際化〉と本学国際交流インストラクターの評価

——「にいがたNGOネットワーク」国際教育研究会に招かれて



クロスバールにいがた

「多文化共生ってなんだろう」 ワークショップで理解深める

薄になった今日の世に、私たちが丸裸で投げ込まれた時どうすべきか判断できる力や、自分とは相いれない他者や敵かもしれない他者とも協働して生きる力など、それらを自ら内発的に考え行動する、いわば「内発的国際化」が求められている。そのような文脈で、学生が主体となり、自らが立案し、実践する中で共に学び合う、国際交流インストラクターの活動がなぜこれほど高く評価されてきたのか、その背景についてお話しさせていただきます。

その後、本学の国際交流インストラクターの学生諸君が国際理解ワークショップを行いました。タイトルは、「多文化共生はもう始まっている——共生ってなんだろう——」。「文化」とは何か、「多文化共生」とは何かについて、イスラーム文化圏で広く使用される「ヒジャブ」(スカーフ)を題材に議論しました。どの学生も落ち着いてファシリテーションをやり遂げ、会場の学びを深めることに成功していました。

(国際学部 国際文化学科 教授 佐々木寛)

湧源

編集後記に代えて

入試・広報委員 西山 茂

これから1年間このコラムを担当させていただきますことになった。よろしくお付き合い願いたい。

ところで、このコラムの名前「湧源」は、日ごろよく利用される辞書類には掲載がなかった。しかし、水が湧く源という意味であること、比喩的に「何かの湧く源」の意味で用いられるであろうことは、容易に理解できる。おそらく、初期のころのこのコラムの担当者が故事などから借用されたのだろうと思う。フィールズ賞受賞の数学者である広中平祐氏が好きだった言葉だそうである。広中さんには逆立ちしても及ばないが、私のコラムが皆さんの「アイディア」や「活力」「意欲」を湧かせる一助になれば幸いである。

湧源の執筆依頼を受けたとき、すぐに初回は角田山を題材にしようと思った。なぜかは自分でもよく分からないが、少し考えてみた。

私は2010年から本学で教員を務めており、通勤は、健康(とお金)を慮って越後線を使っている。必然的に、越後赤塚駅から大学に来るときには、いつも角田山を遠望する。今の私にとって角田山は、とても近い存在であり、晴れた日の角田山の清々しい眺めは、一日の活力の源になっている。

しかし、私は新潟市に生まれ高校卒業まで暮らしたが、その時は私にとって新潟市近辺の山といえば弥彦山であり、角田山とは疎遠であった。

本学にとってこんなに近くにある角田山が、以前の私と似たように疎遠であるのは不思議である。本学の校歌に佐潟や弥彦山は出てくるが、角田山は出てこない。学生食堂の名前も弥彦である。ただし、教員の親睦会は「角田会」であるが、その程度である。

四季折々、天候によつてさまざまな姿を見せてくれる角田山は、本学の学生、教職員にいろんな刺激を与えてくれると思う。一度、じっくり角田山を眺めてほしい。

角田山はキャンパスライフのさまざまな「湧源」となるはずであり、だから大学には角田山をもう少し大事に扱ってもらいたい。まず手始めに、現学生ホール2階の喫茶室の名前を「角田(山)」に変えたらどうだろうか。

親睦深め爽やかな汗



スポーツ大会盛り上がる

大会実行委員長 北山 友侑
(情報システム学科2年)

毎年恒例のスポーツ大会が5月17日、本校みずき野キャンパスで開催され、6種目の競技に学生と教職員ら約450人が参加して親睦を深め心地良い汗を流しました。

大縄跳びは、男女比率の差で不利がないということで19チームが参加、情報システム学科の内田ゼミが優勝しました。人気のドッジボールは、審判を巡る前年のクレームを解決して実施しました。

当日は曇り空と小雨でしたが、参加した学生たちに大いに盛り上げてもらい、本番までに感じていた不安が、喜びと達成感に変わりました。反省点を整理して、来年度も学生たちの楽しい思い出づくりに貢献したいと思います。

学業や課外活動をたえ

18人に表彰奨学金

しっかりとした目標意識を持って頑張る学生への励みとする、表彰奨学金の授与式が6月25日に行われ、平山学長から18人に証書と奨学金が贈られました。

今年度の表彰学生は、学業優秀者(前年度の修得科目の成績が各学年・学科において優秀であった者)が15人(情報文化学科6人、情報システム学科9人)で各30万円。また、課外活動では西區自治協議会委員として地域貢献を行った学生や、外国語スピーチコンテストに優勝、スポーツの北信越大会で優勝し全国大会に出場した3人の学生の活躍をたたえ、10万円が授与されました。

切磋琢磨して記録に挑戦

陸上競技部主将 本間 竜一
(情報システム学科4年)

陸上競技部は選手9人、マネージャー2人の計11人で活動して、それぞれ目標(自己記録更新や標準記録突破など)に向かってお互いに切磋琢磨しながら日々精進しています。

主な競技会は北信越学生陸上競技対校選手権大会(北日本インカレ・8月)です。これらの大会で優勝もしくは標準記録を突破すると、9月の日本学生陸上競技対校選手権(日本インカレ)に出場することが出来ます。また、別に定められた標準記録を突破することで6月に行われる日本学生陸上競技個人選手権大会(日本学生個人)へ出場することが出来ます。

日本学生陸上 個人100mで準決勝進出



前右列が本間主将

とができます。

最近の主な実績は、昨年度に北信越インカレの男子1100mハードルで優勝(14秒73)して日本インカレに出場しました。今年の北信越インカレでは男子100mで4位(10秒58)でしたが、大会新記録と標準記録突破により、6月に行われた日本学生個人選手権に出場し、予選を勝ち抜き準決勝まで進出しました。

平成27年度 入学者選抜試験概要 (要約一覧)

※詳細は本学学生募集要項でご確認ください。※出願期間内消印有効。

入試区分	募集人員	出願期間	試験日	試験地	試験実施教科・科目	合格者発表日	入学手続期間
推薦入学試験	指定校制	情報文化学部 情報システム学科 35 国際学部 国際文化学科 30	26年11月1日出 11月10日 26年11月16日	新潟	本学が指定校と定めた高校長宛てに推薦依頼を行います。	26年11月21日 12月5日	26年11月21日 12月5日
	公募制 ・教科成績重視型 ・資格・検定重視型	情報文化学部 情報システム学科 25 国際学部 国際文化学科 10			〈教科成績重視型〉面接・小論文 推薦要件：全体の評定平均値3.8以上または、国語・地理歴史・公民・数学・理科・外国語(英語)のうち、いずれか1教科の評定平均値が4.5以上であること。 〈資格・検定重視型〉面接・小論文 推薦要件：本学が定めた資格・検定に合格、あるいは成績を修め、かつ全体の評定平均値が3.5以上であること。 ※対象資格・検定は、学生募集要項で確認してください。		
	公募制 スポーツ推薦	情報文化学部 情報システム学科 若干名 国際学部 国際文化学科 若干名			面接・小論文・競技実績 ※対象種目は、学生募集要項で確認してください。		
	公募制 ・教科成績重視型 ・資格・検定重視型	情報文化学部 情報システム学科 5 国際学部 国際文化学科 5			I期・公募制(教科成績重視型)と同様。 I期・公募制(資格・検定重視型)と同様。		
	前期 (第2志願制)	情報文化学部 情報システム学科 65 国際学部 国際文化学科 35			・国語：国語総合(現代文)・現代文 ・数学：数学I・数学II ・外国語：英語I・英語II 上記3教科の中から2教科または3教科を受験した場合は高得点の2教科を合否判定に使用。		
一般入学試験	大学入試センター試験利用	情報文化学部 情報システム学科 10 国際学部 国際文化学科 10	27年1月17日 18日の大学入試センター試験を受験していること	新潟上越長岡新発田	個別の学力検査等は行わず、平成27年度大学入試センター試験の成績で判定。各学部・学科の利用教科・科目の中から2科目以上選択。配点：各教科100点(3科目以上受験した場合は高得点の2科目を合否判定に使用。国語は近代以降の文章のみ利用。外国語(英語)はリスニングを含む)。※各学部・学科で利用教科・科目は異なりますので、学生募集要項で確認してください。	27年2月6日 27年2月23日	27年2月6日 27年2月23日 3月5日
	後期 (第2志願制)	情報文化学部 情報システム学科 10 国際学部 国際文化学科 10	27年2月25日 3月10日	新潟	前期(第2志願制)と同様。	27年3月19日	27年3月19日 3月26日
	帰国生入学試験 社会人入学試験 外国人留学生入学試験	情報文化学部 情報システム学科 若干名 国際学部 国際文化学科 若干名	26年11月1日出 11月10日 26年11月16日	新潟	面接・小論文	26年11月21日 12月5日	26年11月21日 12月5日

入学時の
奨学金

高校長推薦
入学試験合格者

合格後に希望者に対し2月2日「奨学金試験」を実施し、その結果、成績上位者に年間授業料の半額を給付します。

一般入学試験(前期)
受験者

一般入学試験(前期)の試験結果から、上位成績者に年間授業料の半額を給付します。

◎入試と奨学金の詳細については入試・広報課までお問い合わせください。TEL025-264-3777(直) FAX025-264-3780 E-mail nyushiweb@nuis.ac.jp

オープンキャンパス

高校生はじめどなたでもご参加できます!

- 学部およびカリキュラム説明
- 入試情報説明
- 入試問題の傾向と対策
- 模擬講義

- 語学体験(ロシア語・中国語・韓国語・英語)
- コンピュータ実習
- 海外留学相談コーナー

- 個別入試・就職相談
- 在学生との懇談
- 施設見学
- 保護者向けプログラム

会場 新潟国際情報大学 本校 新潟市西区みずき野3-1-1 (JR越後赤塚駅下車 徒歩7分)

参加お申込み 下記問い合わせ先、または右記QRコード受付専用ページよりお申込みください。

7・8月 県内各地より無料送迎バス運行 詳細はホームページをご覧ください。



1回目 7/20日 AM 10:30~PM 3:30



2回目 8/3日 AM 10:30~PM 3:30



3回目 9/7日 AM 10:30~PM 2:00



お問い合わせ先 新潟国際情報大学 入試・広報課 〒950-2292 新潟市西区みずき野3-1-1 TEL025-264-3777 FAX025-264-3780 E-mail nyushikouho@nuis.ac.jp



6月2日に新潟中央キャンパスへ入居させていただきました。事業内容は、スマートフォンアプリケーション制作、Webサイト・コンテンツ制作、運営、受託を主に行っています。状況の変化に応じてその時に必要なモノを提供していければと考えていますので、何か

ゼロから築く難しさ 山積みの試練を実感

プラスクリエイティブ代表・諸橋弘幸 (情報システム学科2010年度卒業)

不便に感じる事やモノがありましたら、ささいな事でも構いませんので聞かせていただくと幸いです。

私は今、実際に事業を起こし、ゼロから築く難しさを感じています。毎日、山積みの試練でこの状況を打破するためにチーム一丸となって日々試行錯誤を行っています。私自身の成長＝プラスクリエイティブの成長です。そのために同業者とのつながりはもちろ

母校と新潟に恩返しを

ん、それと同等に異業種とのつながりも大切にし、携わる全ての方に信頼され慕われる人間を目指すとともに、今まで以上に周りの人を大切に、人格向上に努めてまいります。

将来的に学生さんをインターンシップで受け入れることも視野に入れ、新潟を支える基盤になれるよう精進してまいります。母校である新潟国際情報大学、そして新潟に恩返しができればと考えていますので、よろしくご指導ご鞭撻のほどお願いいたします。

本学20周年記念事業

「起業支援プロジェクト」第1号

情報文化学科 2005年度卒業 新津 厚子

「アートは社会に必要なものか。必要だとすれば、なぜ、誰が、どこで、どのようにに？」このような大きな問いを前提に、私は東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻(中南米小地域)博士課程にて、ロサンゼルス市の壁画文化とその公共性に関する研究をしています。2013年8月からは1年間の予定で、カリフォルニア大学ロサンゼルス校のチカノ研究所で調査をしています。

私の研究の魅力は、社会で追いつめられた人々が、路上の壁に絵を描くことで(または観ることで)、闘争の手段を得て、社会との接点と自己の尊厳を取り戻し、ときに救済されていく点です。日本では日常に路上の壁画を観ることは少ないかもしれませんが、日々壁画を多く目にするロサンゼルスでも、路上の壁画に興味を見いだす人々ばかりではなく、壁画の価値を巡って

ロサンゼルス市の壁画文化と その公共性に関する研究



例えば修士課程から、私の大学院生活は挫折、失敗、反省の繰り返しですが、この先も迷ったときは国情で受けた言葉と育てた初心に戻り、後退を含めて一歩一歩、確実に博士論文完成に向けて進んでいければと思っています。ビバ国情!

「よいテキストとちゃんと向き合う」今回はこの二つが特に私の財産となりました。

東大大学院で博士論文に挑戦

はさまざまな議論があります。また、その議論からは多様な公共性の論理、習慣と規則、創造力を見いだすことができます。それらを明らかにしようというのが私の研究です。

私は昔から周縁性と周縁から生まれるものに強い興味を持っていましたが、そのよ

うな視点を温かく育てていただいたのは、新潟国際情報大学という学びの空間です。大学では学部の4年間に加え、3年間、国際交流インストラクターの推進員として働きました。先日ロサンゼルスから一時帰国をした際に、スタッフセミナーで研究中間報告の機会をいただきました。セミナーでは恩師と現役学生の皆さまから真剣なコメントをいただきました。『よいテキストとちゃんと向き合う』